

## アンケート結果についての考察と課題

### (学校経営・安全教育)

#### (1) 児童アンケートの考察と課題

##### ・「学校へ行くのが楽しい」

(回答1, 2を合わせて) 1年93%, 2年97%, 3年87%, 4年87%, 5年89%, 6年91%。昨年度とほぼ同じ結果であったが, 6年に関しては12%上がっている。「とても楽しい」と感じている児童の割合は, 学年によってばらつきがある。

##### ・「自分には好きなところやいいところがある」

(回答1, 2を合わせて) 1年88%, 2年94%, 3年90%, 4年84%, 5年78%, 6年83%。設問1と同様に学年によって回答1, 2の合計にばらつきがある。

- ・児童一人一人が自己肯定感を実感する場を授業や生活の中で増やしていく必要がある。また, 児童一人一人の良いところを見る意識を教師が持ち, 児童の良いところを児童自身にしっかりと伝えていくことが必要である。

#### (2) 保護者アンケートの考察と課題

##### ・「学校は, 子どもにとって楽しい場となっている」

昨年度同様, どの学年も回答1, 2を合わせて90%を超えている。児童アンケートより良い結果が出ている。今後は「当てはまらない」と答えている家庭との連携をしっかりと図っていかねばいけない。

##### ・「学校は, 不審者対策, 避難訓練など安全教育に力を入れている」

どの学年も回答1, 2を合わせて93%を超えている。学校で実践している防災教育や避難訓練の実施が理解されていると考えられる。今年度初めて実施した引き渡し訓練など, 実際に想定される状況に対応した訓練等を引き続き実施していく。

##### ・「施設・設備などの教育環境が安全で有効に整えられている」

この設問に関しても昨年同様, どの学年も回答1, 2を合わせて約85%以上から当てはまるとの回答を得ているが, 記述回答の中に, 体育館・校舎の老朽化及び改修, トイレの改修・臭いの改善, エアコンの設置等に関する意見を多くいただいた。今後も施設設備については, できる修繕を重ねながら徳島市教育委員会に要望をあげていく。

##### ・「学校は, 家庭との連絡を密にし, 連携を深めようとしている」

学年によってばらつきはあるものの, 回答1, 2を合わせて約83%以上から当てはまるとの回答を得ているが, 記述回答の中には連携の不十分さを訴える回答もあった。「当てはまらない」と感じる家庭をなくしていくため, 家庭との連絡の徹底と連携を進めていかねばと考える。

##### ・「学校は子どものよさや可能性を伸ばしている」

どの学年も約87%以上当てはまるとの回答を得ているが, 当てはまらないという回答を減らしていくため, 児童それぞれの自己肯定感を児童自身に実感させる場面を多くしていく必要があると考える。

##### ・「学校は, 保護者・地域と協力して教育活動をしている」

昨年度同様, どの学年も回答1, 2を合わせて約90%以上の回答を得ている。昨年度より割合は少しではあるが高くなっている。当てはまらないという回答をより減らしていくために, 今後も地域での体験活動を増やし, さらなる連携を図り, それらを広報していく必要があると考える。

## (学力向上・体力向上)

### (1) 児童アンケートの考察と課題

#### ・「授業で学習したことがよくわかる。」

(回答1, 2を合わせて) 1年94%, 2年98%, 3年96%, 4年97%, 5年85%, 6年92%。

昨年度と比較して、5年を除き、回答1, 2を合わせた割合は増加している。今年度、国語科教育の研究大会に向けて、授業の工夫・改善に取り組んだことが活かされたのではないかと考える。学力ステップアップテストの結果からは、国語・算数ともにさらなるドリル学習の積み重ねが必要であると考えられる。今後も、「当てはまらない」と答えた児童の個々の学習状況を把握し、指導方法の工夫・改善を常に考えていかなければいけない。

#### ・「授業中、先生や友達の話をしっかり聞いている。」

(回答1, 2を合わせて) どの学年も、約85%をこえている。授業に落ち着いて取り組んでいるといえるが、その反面、「当てはまらない」と回答した約1割の児童に対しての指導の工夫、並びに授業の改善に取り組んでいかなければいけないと考える。

#### ・「体育の授業が楽しい。」

(回答1, 2を合わせて) 1年100%, 2年99%, 3年94%, 4年99%, 5年96%, 6年94%。

どの学年でも、高い割合を得ることができた。しかし、体力テストの結果においては十分とはいえない。体力テストも念頭に置き、体力向上につながり、自ら運動に親しむようになる授業づくりをめざしたい。

#### ・「授業中、自分の意見を考えたり、発表したりしている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年92%, 2年84%, 3年83%, 4年83%, 5年70%, 6年82%。

昨年度の結果よりも、「当てはまらない」の割合は少なくなっているが、「当てはまる」と感じる児童を増やしていくためにも、今まで以上に、自分の意見を発表する場面が多い授業等の実践が必要である。

#### ・「朝ごはんを食べて登校している。」

(回答1, 2を合わせて) 1年97%, 2年98%, 3年96%, 4年99%, 5年98%, 6年99%。

朝ごはんを食べてくる児童が、どの学年も100%になるように引き続き家庭に呼びかけ、連携を図っていかなければいけない。

#### ・「給食の時、苦手なものでも残さず食べるようにしている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年83%, 2年93%, 3年82%, 4年93%, 5年88%, 6年90%。

昨年度同様、学年によって回答1, 2の割合に少し差がある。日々の給食指導の中で、自分で食べられる量を調節できるようにさせることが必要である。

#### ・「休み時間(用事のないとき)には、外で元気に遊ぶようにしている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年92%, 2年93%, 3年83%, 4年95%, 5年83%, 6年63%。

6年になると「当てはまらない」と回答した割合が多くなっているが、昨年度と比較してみると、他の学年では回答1, 2の割合はほぼ増加している。今後も長なわ大会や、クローバー班での遊びなどを取り入れて、外での遊びを促すことが必要である。

#### ・「朝の読書や読み聞かせの時間を楽しみにしている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年95%, 2年99%, 3年84%, 4年84%, 5年71%, 6年58%。

低学年は、年間を通して読み聞かせ活動をボランティアグループ「ピノキオ」

の方々がしてくれていることが、本への関心を高めていると考えられる。学年が上がるにつれて読書に対する意欲が減少傾向にあるが、全体的には回答1, 2の割合は増加しており、実際に休み時間等に読書をする児童は増加している。昨年度から、取り組んでいる並行読書の推進、教室の読書環境の整備等が効果を上げていていると考える。今後も、朝の読書の時間を本の楽しさを知らせる時間にするとともに、読書環境の整備をさらに進めていきたい。

## (2) 保護者アンケートの考察と課題

### ・「子どもは基礎的・基本的な学習内容を理解できている。」

(回答1, 2を合わせて) どの学年も約90%の回答を得ている。今後、「当てはまらない」という回答を減らしていくため、個に応じた指導をより進めていきたい。

### ・「子どもは先生の話がしっかり聞いている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年97%, 2年98%, 3年88%, 4年95%, 5年92%, 6年92%。

児童アンケートより高い結果が得られている。記述回答には、「授業中うるさい」という意見もあったが、大半の保護者は落ち着きのある授業態度が身についているととらえている。今後、児童アンケートの結果との差を埋めていくように日々の授業の工夫・改善に取り組む必要があると考える。

### ・「子どもは読書が好きである。」

(回答1, 2を合わせて) 1年83%, 2年80%, 3年68%, 4年71%, 5年80%, 6年60%。

6年を除いて、少しではあるが回答1, 2の割合が増えている。読書環境作りに取り組んだ結果が徐々に現れてきていると考える。記述回答でも読書に関する記述は多かった。家庭での読書を促すためにも図書室で本を借りやすい環境作りや、家庭での読書時間を確保するなど家庭との連携が必要である。

### ・「学校は、子どもの体力づくりに力を入れている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年92%, 2年94%, 3年95%, 4年97%, 5年97%, 6年96%。

どの学年も回答1, 2の割合が高い。今後も、学校での体力づくりへの取り組みを広く知らせていく。

### ・「子どもは、苦手な食べ物でもがんばって食べるようにしている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年90%, 2年95%, 3年85%, 4年93%, 5年91%, 6年90%。どの学年も85%をこえているが、記述回答には、家庭での好き嫌いについての記述が多かった。体力づくりと同様、学校の食育への取り組みを広報していく。

## (人権・道徳教育)

### (1) 児童アンケートの考察と課題

#### ・「自分から進んで元気なあいさつができています」

(回答1, 2を合わせて) 1年88%, 2年91%, 3年90%, 4年93%, 5年93%, 6年91%。

どの学年も、昨年度より回答1, 2の割合が増えている。児童会の呼びかけ等の効果が現れていると考える。今後も、児童会だけでなく学級・学年等であいさつ運動に取り組み、より積極的にあいさつのできる児童の育成を目指していきたい。

#### ・「友達の名前を呼び捨てにしたり、乱暴な言葉づかいをしたりしないようにしている。」

(回答1, 2を合わせて) 1年92%, 2年95%, 3年87%, 4年97%, 5年62%, 6年77%。

高学年になると、「よく当てはまる」の回答が減っている。学習中はできているが、普段の生活では十分とはいえない。学級の雰囲気はやさしくなれば子どもの言動もやさしくなっていく。つまり、学級づくりが大切になってくる。今後のそれぞれの担任の学級経営に生かしていきたい。

・「**そうじや係の仕事をするときは、みんなと協力できている。**」

(回答1, 2を合わせて) 1年96%, 2年94%, 3年87%, 4年97%, 5年93%, 6年95%。

どの学年でも90%をこえている。だれとでも協力して仕事ができるよう、今後も指導を続けていく。

・「**学習したことを生かして、友達にやさしくしたり、困っている友だちを助けたりしている。**」

(回答1, 2を合わせて) 1年92%, 2年92%, 3年89%, 4年93%, 5年91%, 6年92%。

今後も良いところを紹介し合うなどして、学級の中でやさしい雰囲気作りに努め、支え合い助け合う行動を増やしていきたい。

・「**クローバー集会やクローバー遠足などのクローバー班活動で同じ班の人と仲良くなれた。**」

(回答1, 2を合わせて) 1年94%, 2年88%, 3年90%, 4年91%, 5年85%, 6年92%。

本校の伝統となっているため、経験の積み重ねがある。実施後の感想も異学年の関わりについて多くの子どもが書いていた。班の編成やクローバー班の意義について共通理解を図りながら、今後も本校の特色の一つとして続けていきたい。

## (2) 保護者アンケートの考察と課題

・「**子どもは、自分から元気よく挨拶ができている。**」

(回答1, 2を合わせて) 1年83%, 2年79%, 3年83%, 4年83%, 5年93%, 6年90%。記述回答では、立哨指導や校内を訪れたときのあいさつが少ないという記述が多かった。校内でのあいさつ指導を進めていくと共に、家庭へも挨拶の大切さを呼びかけていく。

・「**クローバー班活動子どもたちの絆を深めるのに役立っている。**」

(回答1, 2を合わせて) 1年96%, 2年95%, 3年97%, 4年94%, 5年98%, 6年96%。

本校の伝統であり、保護者の中にも体験された方がいて、昨年度同様多くの支持を得ている。しかし、記述回答の中にはデメリットを感じている保護者の意見もあった。クローバー班活動の内容や良さをもっと知ってもらうようにする努力が必要である。

## (生徒指導・特別支援教育)

### (1) 児童アンケートの考察と課題

・「**先生は、自分がかんばったことをほめてくれる。**」

(回答1, 2を合わせて) 1年82%, 2年85%, 3年75%, 4年91%, 5年78%, 6年95%。

学年によって少し差がある結果が出ている。今後も機会を見つけてほめることによって、児童の自己肯定感を高めていく必要がある。

・「**先生は、悪いことをしたとききちんとしかってくれる。**」

(回答1, 2を合わせて) 1年95%, 2年93%, 3年94%, 4年93%, 5年91%, 6年97%。

子どもたちはほめられる事に関する設問よりも、しかられる事に関する設問の方が「よく当てはまる」の回答の割合が多い。機会を逃さずしかることとほめることを両輪にして指導にあたりたい。

・**「先生には、何でも質問したり、相談したりできる。」**

(回答1, 2を合わせて) 1年83%, 2年85%, 3年76%, 4年80%, 5年88%, 6年75%。

他の設問よりも回答1, 2の割合が少ないという結果になっている。児童とのコミュニケーションの確立と校内の相談体制の充実を図らなければいけない。コーディネーターの活用について、啓発していく。

・**「学校のきまりを守って生活している。」**

(回答1, 2を合わせて) 1年97%, 2年98%, 3年96%, 4年100%, 5年96%, 6年97%。

回答1, 2を合わせると90%以上の回答を得ているが、「よく当てはまる」の割合は学年によってばらつきがある。日々の学校生活の中で、自分の行動を振り返る自己評価の場を設けることが必要である。

・**「交通ルールを守り、安全に気をつけて決められた道を登下校している。」**

(回答1, 2を合わせて) 1年99%, 2年99%, 3年96%, 4年99%, 5年97%, 6年99%。

決められた通学路で登下校したり、登下校のマナーについては朝会での全体指導や各学年の発達段階の応じた各クラスでの学級指導を今後も続けていく。

## (2) 保護者アンケートの考察と課題

・**「学校は、正しいきまりを教え、子どもの間違った行動を適切に指導している。」**

(回答1, 2を合わせて) 1年98%, 2年97%, 3年85%, 4年96%, 5年95%, 6年96%。

今後も保護者との連携を密にとりながら生徒指導に取り組んでいく。

・**「学校は、いじめや不登校・非行のない学校づくりに取り組んでいる。」**

(回答1, 2を合わせて) 1年97%, 2年88%, 3年77%, 4年95%, 5年90%, 6年87%。

学年によって差がある結果が出ている。各学年、「当てはまらない」と回答している保護者に対して、学校や担任の取り組みを理解してもらえるよう働きかける必要がある。

・**「子どもは、交通ルールを守り安全に気をつけて決められた道を登下校している。」**

(回答1, 2を合わせて) 1年99%, 2年97%, 3年95%, 4年98%, 5年100%, 6年97%。

ほぼ、児童のアンケート結果と同様であったが、記述回答にマナーの悪さを指摘する意見もあった。登下校時のマナーについて適宜指導していきたい。

・**「学校は、けがや病気だけでなく、心のケアの面でも配慮している。」**

(回答1, 2を合わせて) 1年88%, 2年95%, 3年78%, 4年95%, 5年92%, 6年89%。

「よく当てはまる」の回答が他の設問に比べて少ない。今後も保護者との連携を密にとり、学校の教育活動に理解と協力を求めていく中で、学校と家庭が両輪となって子どもの心のケアをしていくことが必要であり、それが保護者からの信頼感を高めていくことにつながると考える。

・**「学校は、特別な配慮の必要な子どもへの取り組みができています。」**

(回答1, 2を合わせて) 1年96%, 2年88%, 3年86%, 4年96%, 5年96%, 6年96%。

教職員にはよく理解されているが、保護者にも、「よく当てはまる」の割合を増やしていきたい。学校の取り組みを多く広報していく必要がある。

## 学校関係者評価結果

- 1 日 時 平成28年3月8日（火）11：00～13：00
- 2 場 所 校長室
- 3 出席者 増金賢治(学校評議員) 加根敏之(学校評議員) 林千寿留(学校評議員)  
濱口恒一郎(校長) 北島潤(副校長) 生越日佐(教頭)
- 4 評価内容 児童・保護者・教職員アンケート結果とそれをもとにした考察と課題を中心にして

まず、最初に本年度の川内北小学校の評価計画について説明した後、アンケート結果について考察を述べた。

### 学校評議員の評価

- ・昨年度同様、アンケート結果はおおむね良い結果といえるのではないかと。
- ・読書活動において、高学年になると単なる音読だけでなく、内容の理解も伴ってくるので難しいと思うが、今年度のように並行読書などで読書活動の推進を続けてほしい。
- ・読書の途中で意味のわからない言葉が出てきたら辞書等で調べる習慣を付けば、より読書活動の効果が上がると思う。
- ・9割良い結果であったとしても、残り1割の改善を忘れずにめざしてほしい。
- ・一人一人を大切にしていけること、そして、一人一人への指導の積み重ねが学校全体をよくしていくのではないかと。
- ・クローバー班活動では、本校の伝統でもあり、異学年の交流の中で、先輩を尊敬し、後輩をいたわる気持ちが育つ。これからも続けてほしい。
- ・田畑に入らない、用水等に近づかない、広がって歩かない等、登下校のマナーについて続けて指導してほしい。
- ・いじめ等の問題については、公平に時間をかけてお互いに話を聞いて解決してほしい。
- ・児童の活躍の様子は、新聞等でも見ている。よく頑張っている。

### 学校としての次年度の課題と今後の改善方策

- ・全国学力調査や県学力状況調査の結果を分析し、苦手分野の克服を図っていく。ドリル学習の時間を確保することによって、知識分野の定着を図る。
- ・授業時間においては、一人ひとりに応じた学習方法の指導の充実、児童の興味・関心を高めるための板書・発問等の工夫など、引き続き研修を積み重ね、授業改善に取り組んでいく。
- ・昨年度に引き続き、今後も個人懇談、家庭との連携の中で、「家庭学習の手引き」を活用し保護者へ理解や協力を呼びかけていく。
- ・施設面の老朽化等については、今後も教育委員会と協議しながら連携し、施設設備の改善を図っていく。
- ・児童会のあいさつ運動だけでなく、学級・学年からも取り組んでいく。また、学校生活の場において、その場その場で機会を逃さず指導していく。
- ・今年度本格的に取り組んだ国語科での並行読書を継続するとともに、各教室の読書環境の整備に努め、読書好きの児童を増やしていく。

- ・年度当初に引き渡し訓練を実施するなど、次年度もいろいろな場面を想定した実効性のある避難訓練等を実施していく。
- ・学校の教育活動について、手紙の配付やホームページへの掲載を通じて広く知らせていく。
- ・児童朝会の時間、業間や昼休み等を活用し、クローバー班で活動する行事や集会を実施するなどして、班の絆を深め、楽しい学校づくりにつなげていく。